



TITLE:

系統研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

野上, 裕生; 瀬戸口, 烈司; 相本, 満

CITATION:

野上, 裕生 ...[et al]. 系統研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1993, 23: 36-37

ISSUE DATE:

1993-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164499>

RIGHT:

栓止血学会. 日本血栓止血学会誌, 3, 336.

- 15) 中村 伸, 神窪勇一, 後藤 啓, 石原美奈子, 嶽本澄代, 宮本誠二, 岡島研二, 朝倉英策 (1992): 第15回日本血栓止血学会. 日本血栓止血学会誌, 3, 336.
- 16) 中野一司, 丸山征郎, 新名主宏一, 中村 伸, 納 光弘 (1992): 高LDL血症ではなぜ血栓傾向となるのか?: 変成LDLによる単球上のTissue Factor発現の誘導. 第15回日本血栓止血学会. 日本血栓止血学会誌, 3, 337.
- 17) 鎌谷武雄, 木村 敬, 円城寺慶一, 中村 伸, 竹中晃子, 竹中 修, 吉国義明, 宮本誠二, 加藤久雄 (1992): 高コレステロール食負荷サルにおけるTissue Factor Pathway Inhibitor (TFPI)の変動: LDL/VLDL結合同型TFPI活性の増加. 第15回日本血栓止血学会日本血栓止血学会誌, 3, 339.

系統研究部門

野上裕生・瀬戸口烈司・相見 満

研究概要

A) 霊長類の歯の組織学的研究

野上裕生・相見 満

歯のエナメル質にみとめられる成長の周期を吟味し, 従来の5~7日周期の不合理性を指摘した。

B) インドネシアにおける第四紀霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生および化石霊長類の系統・進化・分類について, 詳細な研究をおこなった。

C) 南アメリカにおける第三紀霊長類の研究

瀬戸口烈司・高井正成²⁾・野上裕生

コロンビア国を中心に, 中新世の地層の発掘調査がおこなわれ, 保存良好な歯が多量に発見され, その系統的記載がなされている。

E) 日本における中生代哺乳類の研究

瀬戸口烈司

熊本県の白亜紀の地層(御船層群)で発見された哺乳類(食虫類)化石の系統学的研究をおこなっている。また, さらなる化石の発見を目指して現地での調査も実施している。

F) 南アメリカにおけるティティ属の形態学的研究

小林秀司・野上裕生

ティティ属の歯の形態に着目し, 属内種間変異とその進化的傾向を解析した。

論文

—英文—

- 1) Aimi, M., 1992. Taxonomy and distribution of *Presbytis melalophos* group in Sumatera, Indonesia. *Primates*, 33: 191-206 (with Bakar, A.).
- 2) Setoguchi, T., 1991: Malocclusion, Interdental Space and Dental Arch Form in Colobus Monkeys. *Journ. Growth*, 30: 153-167. (with Kondo, S., Shigehara, N. & Imamura, M.)
- 3) Takai, M., Setoguchi, T. & Nogami, Y., 1992: Geology of La Venta, Colombia, South America. *Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys*, 8: 1-17 (with Takemura, K., Takemura, A., Villarroel, C. A., Hayashida, A., Danhara, T., Ohno, T. & Franco, R. N.).
- 4) Takai, M. & Setoguchi, T., 1992: Fission-Track Ages of the Villavieja Formation of the Miocene Honda Group in La Venta, Department of Huila, Colombia. *Overseas Res. Rep. New World Monkeys*, 8: 19-27 (with Takemura, A. & Danhara, T.).

—和文—

- 1) 瀬戸口烈司, 1993: 哺乳類の大脳皮質の進化. 三上章允編「視覚の進化と脳」. 74 - 88. 朝倉書店, 東京.
- 2) 相見満・後藤俊二, 1993: 霊長類の網膜の系統比較. 三上章允編「視覚の進化と脳」. 24-42. 朝倉書店, 東京.

報告・その他

—英文—

- 1) Aimi, M. 1992: Cladistic analysis of the *Presbytis melalophos* group. Abstracts of the XIVth Congress of the International Primatological Society. p. 69, Strasbourg.

—和文—

- 1) 相見満, 1992: マダガスカル島のキツネザルたち. *カルディエ*, 2(1):87-89.
- 2) 相見満, 1992: 困難な分類. *ヒョケザル*. 動

物たちの地球. 40: 124-125.

- 3) 相見満, 1992: 夜の森の道化師たち. ロリス類, ガラゴ類. 動物たちの地球. 41:150-154.
- 4) 相見満, 1992: サルを求めて1万キロ. 堀田満他編. スマトラの自然と人々. 98-113. 八坂書房, 東京.
- 5) 相見満, 1992: 学名の話(11) 新種を記載するには. モンキー, 242: 10-11.
- 6) 相見満, 1992: 学名の話(12) 出版物とは. モンキー, 243: 11-13.
- 7) 相見満, 1992: 学名の話(13) 動物命名規約と植物命名規約の違い. モンキー, 244: 12-14.
- 8) 相見満, 1992: スマトラのコノハザルの系統関係. 第8回日本霊長類学会学術大会予稿集. 18.
- 9) 相見満, 1992: 他の動物たちとの違い. 京都大学霊長類研究所編「サル学なんでも小事典」. 26-30. 講談社, 東京.
- 10) 相見満, 1992: ニホンザルのきた道. 京都大学霊長類研究所編「サル学なんでも小事典」. 205-210. 講談社, 東京.
- 11) 相見満, 1992: スマトラのコノハザルの系統関係. 霊長類研究, 8: 184.
- 12) 相見満, 1992: 学名の話(14) サルの新種はまだまだ見つかる. モンキー, 245・246: 22-23.
- 13) 瀬戸口烈司, 1991: 自由な思考と進化論. UP, 20-12(東京大学出版会): 21-25.
- 14) 瀬戸口烈司, 1992: 類人猿からホモ・サピエンスへ: 人類はいつ誕生したのか. 『最新大進化論』, 最新科学論シリーズ, 18: 88-99.
- 15) 瀬戸口烈司, 1992: 幻の人類祖先発見史: 「ミッシング・リンク」を探す. 『最新大進化論』, 最新科学論シリーズ, 18: 100-103.
- 16) 瀬戸口烈司, 1992: 夢あふれる新発見. 新版中学国語3. 教育出版, 東京: 78-84.
- 17) 瀬戸口烈司, 1992: 恐竜行動学入門. アニマ, No. 240 (9.1992): 18-27.
- 18) 瀬戸口烈司, 1992: 日本でも見つかった中生代のトリボスフェニク型臼歯. 歯界展望, 80: 861-870.
- 19) 瀬戸口烈司, 1992: 日本でも見つかった中生代の哺乳類化石. モンキー, 244: 18-20.
- 20) 瀬戸口烈司, 原田恵一, 大野照文, 1993:

「メトセラの軌跡—生きた化石と大量絶滅」(訳, ビーター・D・ウォード著), 青土社, 東京.

- 21) 瀬戸口烈司, 1993: アジアの有袋類はどこから来たのか: 中国やタイで発見された化石をめぐって. アニマ, No. 246 (3.1993): 39-42.

ニホンザル野外観察施設

加納隆至(施設長・兼)・東 滋・渡辺邦夫・足沢貞成¹⁾・山口直嗣²⁾・冠地富士夫³⁾

本施設の運営は上記3教官のほか, 鈴木 晃・山極寿一によって進められた。平成4年度の各ステーションの状況は次の通りである。

1. 幸島観察所

幸島の群れは昭和23年以來の蓄積された資料をもとに野外観察施設の中では独自の位置を占めている。今年度早々に, 10年余り主群のボスであったゲシが死亡し, マキグループのボスであるゲバも死亡して, 群れの若返りが進んでいる。主群のボスになったのはノソ(25才)であり, 第2位のオスがミミズ(21才)であり, 20才以上の個体はこの2頭のみである。今年も春から夏にかけて, 島が堆積した砂によって地続きになり, サル番を出す日が多かった。秋に台風がきてこの状態は解消されたが, こうした状態はほぼ毎年のことになっている。一方で対岸に船溜りの整備が進んでおり, 今後も目が離せない。また観察施設東側の小高い丘の上に「ビジターセンター」の建設が決まり, 取り付け道路の工事が行なわれた。リゾート構想による観光地化が進んでおり, 今後の対策が望まれている。平成5年3月の時点での島内の個体数はマキグループ13頭を含め91頭であり, この20年近くの間ほとんど変化していない。今年度の出産は10頭であり, うち4頭が死亡した。本年度2月末には, 和(日本獣医畜産大)や浜田(岡山理大)によって一斉捕獲調査が行なわれたが, この時点で7頭の妊娠が確認されている。

2. 下北研究林

平成4年度は, 12月と2月に佐井村地域を中心に, 従来のZ群由来の群れの数及びそれらの個体

1) 教務補佐員 2) 技官